

目次

序

六六

発刊を祝って

六九

発刊に当たって

九六

第一章 江戸時代の玉川と庶民

一

あらまし

二

第一節 寺子屋師匠と筆子塚

四

第二節 教育内容と教科書

九

第三節 学問・諸芸の習得

十四

第二章 近代教育の始まり

十七

あらまし

十八

第一節 学校のはじまり

二十

第二節 教科目と教科書の変遷

二六

第三節 学校の維持方法

三〇

第三章 国家主義教育の強化

三三

あらまし

三四

第一節 玉川尋常高等小学校の設置と

三八

就学率の上昇

四二

第二節 国定教科書の変遷

四八

第三節 私塾日進塾の開設

四八

第四章 大正から昭和初期の教育

六五

あらまし

六六

第一節 玉川尋常高等小学校の拡充と

六九

日影分教場の開設

六九

第二節 実業補習学校と青年訓練所の

九六

開設

九六

第三節 松山中学校の開設と中等学校

一〇二

への進学増加

一〇二

第四節 小学校高等科三年

一〇八

(特修科)

一一七

第五章 戦時下の教育

一一七

あらまし

一一八

第一節 皇国民教育の展開

一二二

第二節 太平洋戦争下の学校生活

一三八

第三節 子ども達の戦場

一六〇

第六章 戦後期の教育

一九五

あらまし

一九六

第一節 六三制の発足と対応

二〇〇

第二節 社会教育の振興

二三五

第三節 文化の発達とスポーツ

二四〇

活動の奨励

二四〇

第七章 生涯学習時代を迎えて

二四五

あらまし

二四六

第一節 スポーツ村の宣言

二四八

第二節 アスピアたまがわの誕生

二五四

第三節 二十一世紀を見つめて

二六二

別編 二本木座

二六九

●むかしの写真・聞き取り・書簡・コラム

・明治時代の卒業写真

五二

・町田次郎先生の手記

五四

・二年生までしか学校へいけなかった

小峯たね

五五

・小峯たねさんは、私のお母さん

和田ミチ

五七

・明治四十二年入学のころの学校生活

岡本良太郎

五八

・明治四十三年の大水と運動場(仲井)

伊藤忠

六〇

・コラム／証書・賞状・通信簿・手牒

六二

・大正から昭和初期の記念写真

七五

・私の少年時代

島田祐平

八〇

・遠足でえらいめにあつた

齋藤とく

八三

・ガキ大将だった

杉田君太郎

八五

・子供は母親しだい、国は子供しだい

小峰きい

八七

・玉川小学校に学びて

森田晴雄

九〇

・コラム／一ト市龍藏寺住職 松野自得

九五

・コラム／村田タマ

一一五

・村長と校長に三拝されて

青年学校の教師になった

高山正夫 一二八

・金次郎には特にお辞儀はしなかった

高山 一 一三四

・学校にはいろいろなものを持って

いきました

福岡敬子

加治道子 一四二

・兵隊の疎開で授業は二部制になった

田中平八 一五四

・玉川村は自然が美しく、とりわけ

都幾川はきれいだった

吉川裕男 一五六

・渡満してじきに義勇軍は失敗だと思った

地図を見たら簡単に行けそうな気が

小峰 弘 一六四

気になった

八木原和一 一六六

・父は満州移民に非常に熱心だった

柏俣昌平 一六八

・玉川村は三人の割り当てだった

岡本貞治 一七六

・いつ頃来て、いつ帰ったのか、

まったく覚えていません

大河原康子 一七八

・子ども達と一緒に町田屋に慰問に行った

杉田一夫 一八六

・間取りは当時のままです

町田のぶ 一八七

・六年生は村の人達に大変

かわいがってもらいました

山辺悦子 一八八

・町田屋での疎開生活は本当に楽しかった

町田屋旅館疎開関係者

一九〇

・かわいそうでお茶も飲めなかった

石川きん 一九二

・茶飲み話

小室開弘 二〇三

・小学校五・六年生の思い出

和田松子 二〇六

・戦後の小学校

二〇八

・玉川中学校あの日あの時

(昭和二五(三〇))

小林定雄

二二六

・玉川小学校給食“今昔物語”

小川あい子

江原カズ江

二二六

・青年団の活動(戦後の頃)

・二本木座

杉田君太郎

二二六

・川崎弘子の思い出

杉田佐久

二八七

・川崎弘子とバッテリー

尾檀金二

二八八

・学芸会の思い出

渡辺美津

二八九

・二本木座のファイナーレ 玉川村は

田舎らしくないいい村だった

森田きよの

二九二

座談会 大正・昭和初期の思い出

二九四

玉川村教育関係者関係名簿

三〇〇

資料提供及び協力者、協力団体名簿

三〇三